

「中期経営計画2022」の進捗について

5か年の「中期経営計画2022（2023年3月期～2027年3月期）」では、「グループ総合力結集によるトップライン成長」「オペレーションの競争力強化」「深化を支える経営基盤の構築」の3つを「成長戦略」の柱とし、積極的な投資を軸とする「財務戦略」と合わせて持続的な成長を目指します。

数値進捗

2025年3月期は一時的に減益を見込んでおりますが、積極的な投資により、成長戦略で掲げた施策を推し進め、2027年3月期の目標値達成を目指しております。

		2022年3月期実績 前中計5年目	2023年3月期実績 中計2022-1年目	2024年3月期実績 中計2022-2年目	2025年3月期予想 中計2022-3年目	2027年3月期目標 中計2022-5年目
数値目標	営業収益	3,010億円	3,008億円	2,606億円	2,750億円	3,500億円
	営業利益	259億円	260億円	208億円	150億円	230億円
	実力値 ^{※1}	170億円	214億円	208億円	150億円	230億円
	営業CF	231億円	323億円	232億円	205億円	300億円
財務戦略	投資(累計) ^{※2}	—	72億円	205億円	413億円	1,300億円
	配当性向	22.1%	30.1%	30.0%	42.8%	30.0%
	D/Eレシオ	1.25倍	0.99倍	0.76倍	0.79倍	1.00倍
	ROE	20.4%	18.1%	11.9%	8.0%	12.0%超

(注) 記載金額は億円以下を四捨五入して表示しています。



※1 実力値:コロナ禍以降のサプライチェーン混乱から生じた「特需的に発生した営業利益額」を除いた数値です。
※2 投資:BSに計上される累計額を記載しており、人的資本に関する投資やDX・設備投資のうちオペレーティングリースにより調達したもの等、PLで費用計上されるものは含んでおりません。
※3 B2B2C:「Business to Business to Consumer」を略した用語で、企業が消費者にモノやサービスを提供するまでの間に物流会社等を介するビジネスモデルです。

グループ総合力結集によるトップライン成長 — 注力領域での取扱い拡大 —

Mobility

構造の変化に備え 拠点の拡充と体制を整備

- 中国のEV/HV市場拡大を見据えて、現地合弁企業の持分を追加取得(100%子会社化)
- 自動車部品や試作品の物量増加に対応するため、セントレア空港至近の土地を新たに取得
- 海外での部品関連顧客取扱増加に伴い、マレーシアに新倉庫の建設計画を始動



HealthCare

再生医療等領域の 新プラットフォーム構築

- 再生医療等製品特化の新サービス「PRIO PHARMA-QuickCare」をANA Cargo様と連携して開発
- 関西P&Mセンターで再生医療等製品製造業許可を取得し、東西2拠点でのサービス提供を実現
- オンコリスバイオファーマ様のがん治療用ウイルス関連の国内物流業務を新規受託



B2B2C^{※3}

EC需要拡大により 業務拡張

- 家電量販店向けTC/DC^{※4}/EC一体型大規模物流センターを関西地区に加えて関東にも開設
- EC物流センターにおける積極的なマテハン・システム投資を実施
- ハイファッション領域の新規業務を受託し、首都圏に物流センターを開設



※4 TC/DC:TCとはTransfer Centerの略で通過型物流センターとして、保管せずに出荷を行う施設です。DCとはDistribution Centerの略で在庫型物流センターとして荷物を入荷して保管し、必要に応じて出荷を行う施設です。
※5 トラックGメン:長時間の荷待ちや運賃・料金の不当な据え置き等を行う荷主や元請事業者の情報を掴んで「働きかけ・要請と勧告・公表」を行う国交省の調査関係者の愛称です。
※6 物流二法改正:今後2026年迄に施行される予定のトラック事業者の取引に対する法規制で「流通業務総合効率化法」「貨物自動車運送事業法」の一部改正案になります。

サステナビリティビジネス拡大+持続可能な物流体制の構築

サステナビリティビジネスの拡大

- 豊田通商様と共同で、自動車部品の国際物流における世界初パーツ単位でのGHG排出量可視化サービスを新たに開始
- 国際輸送スキーム変更により、CO₂排出量及びドライバーの拘束時間削減を実現し、4社共同でグリーン物流パートナーシップ「特別賞」を受賞

P09 参照





次世代物流構築に向けた共創

- 自動運転トラックによる幹線輸送サービス **With T2様**
- 幹線中継輸送サービス「SLOC」実証実験 **With デンソー様 他**
- 共同輸配送プラットフォーム運用実証 **With NEC様／花王様 他**
- 港湾ターミナルオペレーション高度化技術開発 **With 日立製作所様／三井E&S様**



圧倒的現場力の構築

- DX×現場改善の取り組み
→ 受付/予約システム導入、体系化/標準化取り組みの進展
- 2024年問題への対応
→ 荷待・荷役時間の可視化やトラックGメン^{※5}への対応を完了
- 物流革新に向けた政策パッケージへの対応
→ 適正料金収受や物流二法改正^{※6}への対応をグループ一体で推進

